

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 (評価)

法人名	NPO 法人 よるべさ	代表者	大山 和彦	法人・事業所の特徴	南北に70キロ以上ある幌加内町の中でも市街地から30キロ以上離れた地域にある事業所です。介護サービスが市街地に集中しており、高齢化が進んだこの地域では除雪病院が遠いなどの事情から地域を離れるしか選択がなかったのですが住み慣れた地域で最後まで過ごしたいという思いを支えていこうと平成24年に開設されました。登録者だけでなく、地域住民も対象とした、体操教室や買物ツアーなどの行事を実施したり、地域のボランティア活動への協力も行っています。
事業所名	スマイルホームえん	管理者	蔵前 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1名		9名		1名			3名		

項目	前回の改善計画	取組結果	意見	改善点
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ①毎月の面談で、担当者と進捗状況の確認を行う。出来ていない点は職員会議やミーティングなどで議題にし、計画を達成できるようにする。 ②進捗状況を記録し、事業所での自己評価がどのように行われていたか分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談は計画通りに行えなかった。その都度、職員から聞き取りを行っていた。 ・進捗状況についての詳しい自己評価の行われ方について、委員さんへの説明は行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<p>日々の職員とのかかわりの中から、思っている事や改善点について意見交換を行い、記録していく。その中で全体で話し合ったほうが良いことなど抽出し、計画が達成できるように方向付けていく。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ①担当で、季節テーマに合わせ、年間の計画を立てる。利用者様も作品制作に参加してもらう。 ②寮の玄関の飾りつけの際に、利用者様と普段できない箇所の掃除を行う。えんの玄関も利用者様と一緒に掃除を行う。 ③玄関ドアの開閉音に気を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のテーマに合わせて計画を立て、作成には、ご利用者も参加出来た。 ・玄関の飾りつけの際には、普段できていない箇所の掃除も行い、ご利用者も、積極的に行ってくれた。 ・玄関の出入はセンサーが鳴ると必ず出入りを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの多い日に合わせて準備し、ご利用者に作品づくりに参加してもらう。 ・寮の玄関の飾りつけの際に、ご利用者と普段できない箇所の掃除を行う。えんの玄関もご利用者と一緒に掃除を行う。 ・玄関ドアの開閉音に気を付ける。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ①テントの倒壊により利用されている方のけがや事故につながらぬよう、天候に合わせてすぐに収納できるように変更するなど工夫改良を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候が変わった時にすぐに収納できるものに替えて、休憩のスペースを設けた。ご利用者の家族が来た時など一緒に過ごすことが出来たり、ご利用者がお茶を飲んだりして過ごしていたが、地域の方と 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・しゅまりの会と連携して、休憩スペースでのお茶会を計画し周知する事で、地域の方と交流する機会を設ける。 ・花壇や畑を通じて地域の方も参加できる工夫をする。

		一緒に過ごすことはできなかった。		
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>①担当者会議はコロナの状況を見て関係者個々に聞き取りや情報の共有を行う。</p> <p>②できる範囲でのイベント開催をして地域交流を図る。月曜日の昼食会も継続、拡散していく。</p> <p>③利用者さんと一緒に老人クラブや自治区の行事へ参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は個別に会い、まとめることが、多かった。プラン検討が滞っている。 ・地域の方に昼食への声掛けを行い、毎週、数名が昼食に来てくれるようになった。誕生会や、イベントへの参加があった。 ・老人クラブへは定期的に参加は出来なかった。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議に地域で本人にかかわりの深い方に声をかけて参加してもらおう。事業所だけでなく、地域の方にも支援に参加してもらおう事で本人の暮らしを支えていく。 ・日々、地域の方と情報交換を行い、本人の様子を伝えたり、困っていることなど相談していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>①議事録配布は継続する</p> <p>②会議内で困りごとの意見交換をする。</p> <p>③よるべさ通信と一緒に推進会議の様子内容を配布し会議内容を委員さん以外にも理解してもらおう</p> <p>④模擬訓練は継続実施するが実施計画と振り返りを記録する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録はいいん参に配布する事は出来たが、地域に向けてどんな話し合いが行われているのか周知できなかった。 ・事業所の困りごとに関して緊急で会議を行ったが、多くの方が参加してくれた。 ・助け合いネットワークの模擬訓練は参加者が多く、たくさんの意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録の配布と共に、地域全体の方が、活動内容や話し合った結果などがわかるようになるべさ通信を活用する。 ・助け合いネットワークのマニュアルに意見を反映させ、より良い物にしていくとともに、今年度も実施する。
F. 事業所の防災・災害対策	<p>①自治区防災訓練の際、利用者様・地域の方と参加する。</p> <p>②災害時（特に停電）に必要な物資や電力量の洗い出しを改めて行い、不足分の物資や非常電源を購入し、非常時に備える。</p> <p>③事業所で防災訓練を行った際、実施結果・課題検討と共に非常時の際に地域の方にどのような助力をいただいたのかも合わせ、よるべさ通信で周知する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治区の防災訓練は行われなかった。 ・非常用電力は町から支給された。 ・事業所内での防災訓練は行えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害のマニュアルを見直すために運営推進会議にて防災訓練の計画を立て、実施する。 ・毎月、発電機の始動の確認を行い、職員全員が、取り扱いの注意事項や、使用するものの優先順位について理解できるようにする。

